



感謝状を手にする船越小学校の英聡子校長(右)、吉田航児児童会長(中)、花坂惣二PTA会長

船越小学校に贈られる

国立公園の自然環境の保全に功績があったとして、船越小学校(英聡子校長・児童二二一人)に環境省自然環境局長感謝状が贈られました。

同校は、昭和四十年から親子清掃活動として年二回、学区内の四カ所の海岸を清掃。児童のみの活動にとどまらず、地域住民にも環境保全の輪を広げるなど、長年にわたる地道な活動が高く認められました。

感謝状の贈呈は九月二十五日、宮古市で開かれた陸中海岸国立公園指定五十周年記念式典(陸中海岸国立公園協会主催)の席上で行われました。英校長は「感謝状を頂きこの活動の重要性を再認識しました。今後も清掃活動を通して、身近な自然環境を大切にすることがさらに高まっていくことに期待したい」と決意を新たにしていました。

このほか、本町からは自然公園保護管理員の鳥居貞男さん(大沢・七)が、同国立公園協会功労者表彰を受賞しています。



た。三人であぜんとした。俺はどうかなと「〇〇ちゃんのお母さん俺だーよ」と言ったら、手拍子をとって、「ももたろう」を替え歌で「ありがとう、ありがとう」と歌い出した。あらい言葉もなく、偶然とは思いつつも胸が熱くなり心を通わせた。「ひと山越えても旅である」と母の言った言葉を忘れない。Sさんの家は息抜き場であった。時も流れてSさんは施設暮らしの身になり、家は留守居になり寂れた。わたしのやれることは、茶飯事である出回って家の周りの草取りしかない。今夏は異常

な暑さだったが、汗ばみながらもSさんへの「ゆい」と思えば、心が和らぐ。付き合いは一時的な濃さでだめと常々感じている。菊地サカエ(織笠・70歳)

◇ ◇ ◇

老婆も我が目となりて六十年眼鏡を替えて小さき文字読む菊地孝進(船越・?歳)

悩み内秘めず良き友に相談してみれば心晴れやかに匿名希望(織笠・33歳)

にぎやかに花の匂いをおいていく愛しき孫と愛しき嫁福土順子(八幡町・67歳)

人と太陽の光をあびて実りし稲穂秋風にゆられて稲穂の波豊間根マツ(石峠・?歳)

道端の真赤に咲いたサルビアの花の呼びかけ安全運転松崎静雄(船越・?歳)

御所湖畔萩咲き満ちてほろほろと風の渡るさ紅零す佐藤美栄子(大沢・84歳)

流れる雲も西から東日毎にしみる秋の風港祭りも盛りを終えて明日の出船は南へ北へ世にも知られる三陸漁場戻りの漁に望みを託し日差しも西に傾くころは海の男は大海原にしぶきを浴びて夜明けまでイカとサンマの船は行く岡市健吾(飯岡・?歳)

君は一人じゃないよ足元を見てごらん自分にとって大切な人は一番そばにいるはずだから...どうしようもなく寂しくてどうしようもなく孤独になってもそのことは忘れないでそして今はそばにいないでも遠くから見守ってる大切な人を忘れないで風の踊り子(長崎・21歳)

みんなのスペース



さくらた りょうすけ くん
(山田幼稚園・6歳)

ぼくのゆめ

大きくなったら教師になって
大きな魚をつつて、おさみに
してみんなで食べるんだ。

古里への便り⑥



ふる里山田同郷の会会長代行
東京都江東区
佐々木道義さん(61歳)
[八幡町出身]

初秋の候、人間が生活する上で大切なことは水、空気、食物といわれ、長生きするなら環境の良い地域に住むことと医学博士中原秀臣氏が言っております。まさに三拍子そろった山田町の皆さまこんにちは。わたしが古里を語るのに欠かせないのは大島です。表はコバルトブルー、裏に回ればブルシアンプルーの海の色。いまだに目に焼き付い

て離れません。次にお祭り。特に山田大神楽の皆さんには、山田を代表して六月の「ふる里山田同郷の会」に華を添えていただき、会員一同、心から感謝申し上げます。その場で感じたことは、大神楽保存会の後継者が先人の指導をよく理解し継承されていること。山田の郷土芸能もこれで安泰であることを実感しました。

お祭りといえば、わたしは初めて江戸三大祭の一つ、深川水掛け神輿の責任者を務めることになりました。子供のころみこしの魂入れを見たくて興味を

持っていたことが、この年でもうやく実現することができました。寄付集めから神酒所、お仮屋設営まですべて町会の協力のもとに進み、神聖な気持ちで御魂入れ式をし、連合渡行と町内巡行するの町民の安全と商売繁盛を祈願しました。山田の神輿を思い出しながら挙行できたことをうれしく思っています。

投書

どんなことでも結構です。
どしどしお寄せください。

余韻残る保育園の運動会

町立船越保育園創立五十周年記念大運動会が九月十一日、盛大に行われ、わたしも選挙の投票後、その日のイベントを見る機会に恵まれた。園庭いっぱいには張られた飾り付けが華やかで、それにもまして多数の観衆にびつくりし、気を良くした。

創立以来五十年と一口に言っても、その過程には時節柄、苦難な道をたどった時代があったことが伺われる。そしてまた園児の成長の原点ともいえる保育園の重要性はもちろんのこと、幼児を預かる職員の方々の献身さには頭の下がる思いがする。また、あの日の開会を祝して数百羽のハトが見事に大空めがけて放たれ、かつてない試みに観衆の拍手がいっまでも止まなかった。プログラム種目の地元伝統の山の内剣舞、湾台虎舞に

続いて山田大神楽を再現して園児が舞ったのを目にして、観衆の拍手がいっまでも絶えなく、つい目頭を熱くした。あのにぎわいだ囃子の余韻が今でも鮮明に脳裏に焼き付いている。

齋藤忠雄(船越・80歳)

付き合いは「ゆい」の心で

Sさんは六年前から町内の施設に入所している。娘たちとは一年ぶりの再会で喜び合うはずなのに、娘たちを忘れてしまっ